

令和4年度

山形県議会広報・広聴委員会報告書

令和5年3月13日

山形県議会広報・広聴委員会

## 目 次

1	協議の経過及び結果について（概要）	1
2	令和4年度議会広報・広聴事業実績	2
3	令和5年度議会広報・広聴事業計画	7
4	山形県議会広報・広聴委員会委員名簿	10

### （参考資料）

○	令和4年度生徒・学生と県議会議員との意見交換会の実施状況について	11
---	----------------------------------	----

## 1 協議の経過及び結果について（概要）

山形県議会広報・広聴委員会は、県議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の声を広く聴き、県民に県議会を身近に感じてもらうための取組みを進めるため、今年度6回の委員会を開催した。

委員会では、広報誌の編集やテレビ広報番組の企画、「議場演奏会」、「県議会ギャラリー」、「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」の実施方法等について協議を重ねながら、多岐にわたり県議会の活動に関する広報・広聴の充実に努めた。

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、委員会では、感染状況に配慮した議会広報活動に努めてきた。今年度は、若者に県議会を身近に感じてもらう取組みとして「県議会ギャラリー」での高校生による展示内容の発表会を実施し、議員との交流を図ったところである。

来年度の広報・広聴事業の方針等については、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ5類に移行するのに伴い、議場演奏会の一般公募を再開するとともに、より効果的な情報発信の在り方や時代に即した手法について検討していく必要があると思われる。また、成年年齢引下げに伴い、若者に県議会を身近に感じてもらい政治に関心を持ってもらう取組みについても引き続き検討が必要である。

今後とも、開かれた県議会を目指し、議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の意見を広く聴くための方策について、調査・検討を深めていくことを希望するものである。

## 2 令和4年度議会広報・広聴事業実績

### 1 広報誌等

#### (1) 「県議会だより」の発行

県民に議会活動の概要を伝えるため、年6回発行し、県広報誌「県民のあゆみ」に合冊して全戸配布（約40万部）した。

号	発行日	主な掲載内容
第90号	令和4年5月1日	令和4年2月定例会の概要、3特別委員会における議会政策提言
第91号	令和4年7月1日	常任委員会の紹介、トピックス
第92号	令和4年9月1日	令和4年6月定例会の概要、トピックス
第93号	令和4年11月1日	令和4年9月定例会の概要、トピックス
第94号	令和5年1月1日	議長の新年の挨拶、決算特別委員会の概要
第95号	令和5年3月1日	令和4年12月定例会の概要、トピックス

#### (2) 「県議会やまがた」の発行

県民に議会活動を詳細に伝えるため、定例会ごとに年4回・各3,500部発行し、市町村、県内主要団体、NPO法人、大学・短大等へ配布した。

号	発行月	主な掲載内容
第37号	令和4年5月	令和4年2月定例会の概要
第38号	令和4年8月	令和4年6月定例会の概要
第39号	令和4年11月	令和4年9月定例会の概要
第40号	令和5年2月	令和4年12月定例会の概要

#### (3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

選挙権年齢の引下げを踏まえ、高校生を中心とした若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する興味を持ってもらうため、40,000部を発行、県内の高校・大学等へ配付。なお、山形大学公認フリーペーパーサークル「Y-a i ! (ヤイ)」に協力を依頼し、若者の感性を活かした紙面構成とした。

号	発行月	主な掲載内容
第7号	令和4年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県議会議員との意見交換会</li> <li>・ 学生に政治や選挙について聞いてみました等</li> </ul>

#### (4) 「県議会のしおり」の配布

議会の役割、活動内容の周知を図るため、「県議会のしおり」を議事堂見学者等に配布した。

また、視覚障がいのある方向けに作成した点字版「県議会のしおり」についても、議事堂見学者への配布や県議会ロビーに備え付けるなどして活用した。

## 2 議場演奏会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会」を開催した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、議場演奏会のみで開催とし、聴衆者は一般公募に替え、当日の傍聴者等とした。

### ■ 開催概要

- ・ 開催日 令和4年12月13日
- ・ 聴衆 50名（傍聴席定員数上限）
- ・ 実施内容 議場における山形交響楽団による弦楽合奏の鑑賞

## 3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらう機会を設けるとともに、県民、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生の文化活動の展示スペース「県議会ギャラリー」を提供した。

令和4年度は、展示を行った高校生に議事堂で発表を行ってもらうなど、引き続きコロナ禍においても県議会ギャラリーに足を運んでもらえることを目指した展示を行った。

展示期間	展示内容
令和4年6月2日 ～6月21日	「山形県緑の少年団」の各地域における活動状況
令和4年9月16日 ～10月7日	第46回全国高等学校総合文化祭「とうきょう総文2022」 (写真部門) 参加作品
令和4年12月1日 ～12月20日	「全国産業教育フェア」に本県から参加し、成果発表を行った高等学校の活動状況
令和5年2月20日 ～3月16日	山形県児童生徒版画作品展の入賞作品
令和5年3月9日 ～3月16日	第70回県内高等学校建築設計デザインコンクールの入賞作品

## 4 インターネット

### (1) 県議会ホームページの運営

定例会・各常任委員会・3特別委員会・議会運営委員会の概要、地域議員協議会の内容や県議会のトピックスなど、議会の動きをわかりやすくタイムリーに掲載した。

### (2) 議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信した。令和2年2月定例会にスマートフォン等向けの配信を開始して以降、回平均アクセス件数は増加傾向にあり、今年度（令和5年1月31日時点）は10,575件（生中継：4,288件、録画中継：6,287件）となっている。

### (3) 会議録検索システムによる会議情報の提供

会議録検索システムに「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録を登録し、県議会ホームページ上で、会議録の検索、閲覧、印刷、ダウンロードに対応した。

## 5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

### (1) YBC「やまがたサンデー5」（15分番組）の活用

放映日	タイトル	主な内容
令和4年9月18日	若者と熱く語る！ ～開かれた山形県議会～	山形大学生と県議会議員との意見交換の様子、副議長及び広報・広聴委員長インタビュー
令和4年12月25日	県議会によろこそ！ ～県民と奏でるハーモニー～	議場演奏会及び県議会ギャラリー高校生展示・発表会の様子、議長インタビュー

### (2) 県政広報番組を活用した定例会の告知

県政広報番組の告知枠を利用し、各定例会の日程と傍聴案内の告知を行った。

## 6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局ロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施した。

## 7 報道機関（パブリシティ）の活用

生徒・学生との意見交換会等について、県庁記者クラブへ情報を発信した。

## 8 広聴事業

### (1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的として「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」を開催した。

地域バランスを考慮して4校（県内4地域から1校ずつ）で開催した。出席した議員は、正副議長、広報・広聴委員を中心に1校につき5名の延べ20名、参加した生徒数は149名であった。

意見交換会は、参加した生徒の発言の機会を確保するため、活動報告やワークショップを取り入れて実施し、各校が設定したテーマを基に、幅広い内容で活発な意見が交わされた。

## ■開催概要

開催日	学校名（所在地）	出席議員数	参加者数
令和4年7月19日	県立置賜農業高校（川西町）	5名	9名
令和4年9月2日	山形大学（山形市）	5名	10名
令和4年10月21日	県立農林大学校（新庄市）	5名	107名
令和4年11月1日	酒田市立酒田看護専門学校（酒田市）	5名	23名

※意見交換会の内容については、山形大学公認サークルY－a i！（ヤイ）の協力により作成した若者向け広報誌「県議会ナビ」を活用し、政治・選挙に関する情報などと合わせて発信した。

### （2）山形大学との意見交換会

若者向け広報誌「県議会ナビ」の編集内容や若者から県議会に興味を持ってもらうための方法等について、山形大学公認サークルY－a i！（ヤイ）の学生と意見交換を行った。

### 3 令和5年度議会広報・広聴事業計画

#### 1 広報誌等

##### (1) 「県議会だより」の発行（県広報誌「県民のあゆみ」との合冊）

項目	「県議会だより」	「県民のあゆみ」
発行回数	年6回掲載 5月号〔2月定例会分〕 7月号〔企画記事〕 9月号〔6月定例会分〕 11月号〔9月定例会分〕 1月号〔決算特別委員会分〕 3月号〔12月定例会分〕	年6回 隔月奇数月
ページ数	各号見開き2ページ（1月号は1ページ）	各号16ページ
配布先	全戸配布（約40万部）	同左
備考	幅広い年代が見ることから、より分かりやすく伝える紙面となるよう工夫していく。	

##### (2) 「県議会やまがた」の発行

発行回数	年4回（4定例会毎）
ページ数	各号タブロイド版 4ページ
配布先	県内市町村、主要団体、NPO、大学・短大等（3,500部）

##### (3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

発行回数	年1回
ページ数	A4版見開き4ページ
配布先	県内高等学校、大学・短大等（約4万部）

##### (4) パンフレットの配布等

議会についての理解や関心を高めるため、「県議会のしおり」等を議事堂見学者等に配布する他、様々な媒体を活用し情報発信を行っていく。

#### 2 議場演奏会と議会見学会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会と議会見学会」を開催する。

### 3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらうきっかけとなることを目指すともに、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会への理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生が学校の授業や部活動などで制作した作品の展示スペース「県議会ギャラリー」を引き続き提供する。

### 4 インターネット

#### (1) 山形県議会ホームページの運営

定例会・臨時会の概要や各委員会の活動状況等、様々な議会情報を引き続き一元的に掲載していく。また、県議会トピックスとして、上記以外の多様な活動も積極的に発信する。

#### (2) 議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信する。

#### (3) 会議録検索システムによる会議情報の提供（※平成4年分から）

「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録全文については、検索システムにデータを格納し、ホームページから閲覧できるようにする。

### 5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

県政広報番組枠を活用し、議会広報番組の放映を実施する。

#### (1) テレビ

県政広報テレビ15分番組による議会活動の紹介、会期告知等

#### (2) ラジオ

「定例会・地域議員協議会」開催の告知等

### 6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局ロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施する。

### 7 報道機関（パブリシティ）、各種広報媒体の活用

報道各社に対し、議会活動の積極的な情報提供を行うほか、県広報広聴推進課所管の広報媒体の活用や市町村等の広報媒体を活用した広報に努める。

## 8 広聴事業

### (1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図るため引き続き開催する。なお、意見交換会の開催にあたっては、地域バランスを考慮して実施校の選定（原則として各地域1校ずつ）を行い、参加生徒の発言の機会を確保するため、参加校の意向を踏まえ、ワークショップや活動発表等を取り入れながら実施する。

### (2) 山形大学生との意見交換会

若者から県議会に興味を持ってもらうための方法や若者の政治参加を目的に、引き続き開催する。

## 山形県議会広報・広聴委員会委員名簿

委員長	五十嵐	智	洋	
副委員長	梅	津	庸	成
委員	今	野	美奈子	
委員	高	橋	淳	
委員	遠	藤	寛	明
委員	相	田	光	照
委員	遠	藤	和	典
委員	梶	原	宗	明
委員	関			徹
委員	鈴	木		孝

# 参 考 资 料



# 令和4年度 生徒・学生と県議会議員との意見交換会 の実施状況について

## I 総括

### 1 実施校

生徒・学生と県議会議員との意見交換会は、平成27年度の試行を踏まえて、28年度から本格実施している。令和4年度は、4校（県内4地域から1校ずつ）との意見交換を実施し、正副議長、広報・広聴委員を中心に延20名の議員が意見交換会に出席した。

学校名	開催月日	出席議員数	参加者数	開催場所
県立置賜農業高等学校	7月19日（火）	5名	9名	学校（川西町）
山形大学	9月2日（金）	5名	10名	学校（山形市）
県立農林大学校	10月21日（金）	5名	107名	学校（新庄市）
酒田市立酒田看護専門学校	11月1日（火）	5名	23名	学校（酒田市）
合 計		20名	149名	

### 2 意見交換の概要

各校で設定したテーマを基に意見交換を行った。意見交換では、参加した生徒の発言の機会を確保するため、ワークショップや活動発表を取り入れて実施した。

#### 【意見交換の項目】

##### ■活動報告+質疑応答形式（1校）

#### （1）県立置賜農業高等学校

##### 【活動発表テーマ】

- ① 置農生徒会の新たな取組みの提案
- ② 農業クラブ活動を通して、農業の魅力を感じてもらい、後継者を増やすためには何ができるか。

##### 【質疑テーマ】

- ① 若者の政治参加について
- ② 若者の回帰・定着について

## ■質疑応答形式（2校）

### （1）山形大学

#### 【テーマ】

- ① コロナ禍後の観光業のあり方
- ② 豪雨などの災害対策の現状と今後
- ③ 県立図書館の「今」と「これから」

### （2）県立農林大学校

#### 【テーマ】

今後の農業経営・林業の発展方策等について

## ■ワークショップ形式（1校）

### （1）酒田市立酒田看護専門学校

#### 【テーマ】

人間の多様な価値観を尊重する

～LGBTQ&SOGLIの人たちが生きやすい社会を構築するために

看護師を目指す私たちができること～

## 3 アンケート結果の概要

### （1）意見交換会を実施しての感想

参加した生徒からは、議員の考えを直接聞くことができる点や議員に直接質問することができる点において好意的な意見が多く寄せられ、意見交換会が議会や議員を身近に感じてもらう契機となっていることがうかがえる。

一方で、時間配分や質疑項目の選定について改善を求める意見もあった。

#### 【感想（主なもの）】

##### ① 議員との意見交換について

- ・様々な意見を議員の方と話すことが出来たのはとてもよい機会となった。考え方が変わったこともあり、とても貴重な時間になった。
- ・1つ1つの質問に対して、分かりやすく、かつ明確に説明して下さったのが非常に良かった。回答に加えプラスαの情報を提供して頂いたのもとても参考になった。
- ・学生の質問に対し、しっかり答えながら、逆に質問して考えさせるということもあり、とてもよい意見交換会だと思った。
- ・県での実際の実践の取り組みや考えを聞きながら意見交換ができて良かったです。設定したテーマについて、改めて考える良い機会になった。
- ・県議会議員という堅いイメージがあったが、質問への回答の際などに、ユー

モアを交えながら回答してくださり、イメージが変わった。

- ・全体として、時間が短く、用意した質問とそれに対する回答だけで終わってしまったので、もっと議論ができるような時間があればよいと感じた。
- ・ありきたりなテーマではなく、若い世代が真に関心を持つトピックについて両者が腹を割って交流できれば、面白くかつ意味のある意見交換会になると思う。  
など

## ② 政治や選挙への関心について

- ・今回、意見交換に参加させていただき、議員の方々がどんなことを考えているのかを知ることができたので良かった。また、私自身が思っていることを伝えることで、山形県がより豊かになっていって欲しいと思った。
- ・意見交換会の場で、地域の課題等について話せたので、今後の活動に活用し、役立てていきたい。
- ・山形県のよりよい街づくり・地域活性化のために、学生の若い意見が取り入れられ、山形県がこれからのいい方向に進んでいって欲しいと強く思った。
- ・今回初めて県議会議員のみなさんと話をしましたが、自分の想像以上に市民の要望が必要とされていることを実感できる機会となったと思う。
- ・議員の方は真摯に回答してくれて、様々なことを知ることが出来た。県議会議員はニュースでもあまり扱われないので、こうして実際に対話することで、県議会に対する関心が湧いた。
- ・農業は若い世代の参入が少ない中、農林大学校の生徒や県議会の取組みが大事だと感じた。
- ・今日の意見交換でよりLGBTQ&SOGIについて考えることが出来、私たちがすべきことを議員の方と話し合うことができました。
- ・自分達ではわからない行政で行っている政策について貴重な意見を聞き、LGBTQ&SOGIについての考えを深めることができた。まだまだ世間では認知されていないことを、自分たちが積極的に学び広めていきたいと思った。  
など

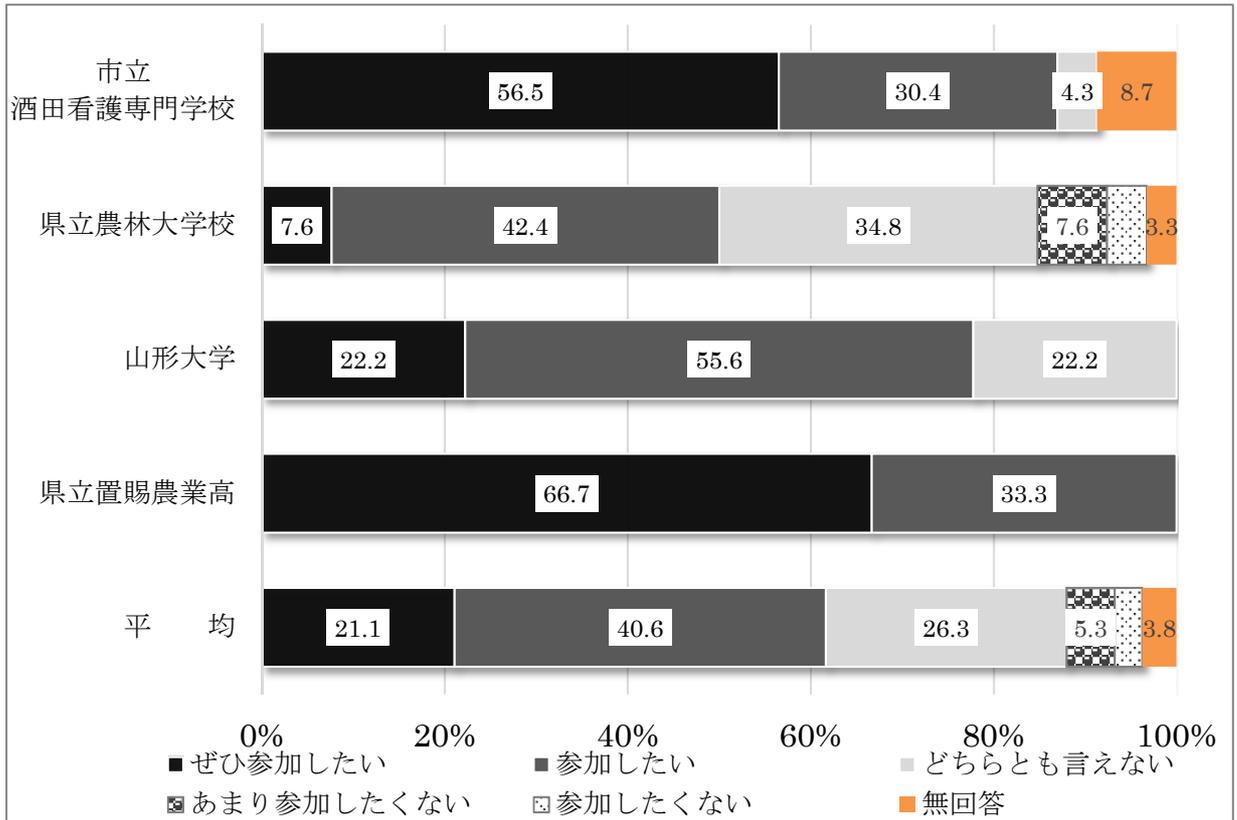
## ③ その他

- ・若者への支援を十分にしているとのことだが、なぜ毎年農家が減っているのかが気になった。若者が農業に誇りを持って参加するためにはどうすればいいかなどもう少し細かく聞きたい。
- ・農家は農業者人口が減って焦っているのに、県はそうでもないのかなと、熱意の差を感じた。もっと個人農家一人ひとりに寄り添ってほしいと強く思った。女性議員の方の話も聞いてみたい。  
など

## (2) 今後の参加希望について（実施後のアンケートより）

各校の回答を集計すると「ぜひ参加したい」と「参加したい」で約60%を占め、全体として好意的に受け止められている。特に、活動報告やワークショップを取り入れて実施した学校では、好意的な評価が多い傾向が見られる。

### 参考／アンケート集計結果



## (3) 政治への関心を高め、県議会を身近に感じてもらうための提案

意見交換会の拡充を求める意見が最も多く、次いで、SNS（YouTube、Twitter、インスタグラム、TikTok等）や各種広報媒体（ポスター、新聞、ラジオ等）を活用した若者への情報発信の強化を求める意見が多く見られた。その他、学校の授業への導入や政治や議会の難しい・堅苦しいイメージの払拭などの意見が見られた。

- ・今回の意見交換会のような、議員の方がどんな活動をしているのかを伝える活動を増やす。
- ・学校での意見交換会や交流会などをもっと増やし、議会の仕組み、大切さ、面白さを説明する。
- ・県議会と聞くと難しそうという印象がやっぱりあるので、機会があれば、高校

や中学校などの生徒との交流をもっと増やす。

- ・ SNS (YouTube、Twitter、Instagram、TikTok等) などの活用。
- ・ 若者は同世代の影響をより受けやすいように感じるため、政治や県議会の宣伝に学生等の若い世代を起用する。
- ・ SNS、ポスター、新聞、ラジオ、対話、講義など様々な媒体を通して情報発信を行う。
- ・ 政治に関わる上でのメリットがあまりわからないので、それがわかると良い。広報誌で若者に関心を持ってほしいなら、年1回では少ないと思う。配布場所も増やしていけばよい。
- ・ パンフレットなどでは効果が薄いと思う。今回のような実際に議員の方と話す機会をたくさん作ればとても良い。
- ・ 政治に対するイメージとして、自分事とは考えづらいというのがあると感じるので、身近なところに政治があることを知ってもらう必要がある。
- ・ 若者を主対象とした政策や身近な取組みがもっとあれば関心を持ちやすい。
- ・ 議会で話し合われた内容等を分かりやすく、簡単にまとめたものを授業で学ぶ機会があれば、関心を高めることができるのではないか。
- ・ 傍聴、見学を学校で行う（社会科見学など）
- ・ ZOOMなどでの議会の中の見学。
- ・ 今回の意見交換会では、事前に質問・意見を準備する必要があったので、自分たちで山形県の政治について調べる機会があった。情報を学生に発信するだけでなく、学生のほうから政治について考える機会があると良い。                    など

## II 学校ごとの実施状況

### 1 県立置賜農業高等学校

開催日	令和4年7月19日（火）
開催場所	県立置賜農業高等学校（川西町）
出席議員	坂本貴美雄、楳津博士、矢吹栄修、相田光照、高橋淳
参加者	生徒会及び農業クラブ 役員 9名
意見交換の概要	<p>生徒から活動状況の報告をいただいた後、「若者の政治参加」と「若者の回帰・定着」をテーマに生徒と議員が意見交換を行った。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・政治と聞くと難しく感じていたが、議員の「自分たちがやりたいと思ったことは行政を巻き込んで実現へ向けて動いてみてほしい」との話を聞き、自分も町を賑やかにしていくために、積極的に取り組んでみたいと感じた。</li><li>・育った町で生活する中で地元の魅力を感じることができれば、若者の回帰・定着につながるのではないかと。</li><li>・農産物がおいしいことに加え、町に住む人の優しさが町の魅力である。これらを併せて発信していくことが重要なのではないかと。</li><li>・若者が回帰・定着するためには、交通の便がよいことが重要ではないかと。</li><li>・自然も確かに魅力だが若者にとってはショッピングができる場所や遊べる場所も必要。</li></ul>

## 2 山形大学

開催日	令和4年9月2日（金）
開催場所	山形大学（山形市）
出席議員	加賀正和、伊藤重成、青柳安展、五十嵐智洋、今野美奈子
参加者	人文社会科学部学生 10名
意見交換の概要	<p>「コロナ禍後の観光業のあり方」、「豪雨などの災害対策の現状と今後」、「県立図書館の「今」と「これから」」をテーマに意見交換を行った。</p> <p><b>【意見の主な内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍後の観光業のあり方について          コロナ禍においては入国時の手続きに時間がかかるなど、対応に不安が残った。このような対応では入国時の不十分な待遇を懸念し、インバウンド客が減少する恐れがある。再流行を想定して事前の対策が必要ではないか。</li> <li>・豪雨などの災害対策の現状と今後について          近年の異常気象の増加に伴い、日本中で豪雨災害が発生している。山形県でも今年8月の豪雨で大きな被害が出た。2020年7月にも最上川の氾濫が発生しており、豪雨や河川の氾濫への対策が必要不可欠である。また、都市部においては、十分な排水能力の確保や事前の冠水箇所の予測が重要である。</li> <li>・県立図書館の「今」と「これから」について          子供たちの読書の機会や教育格差の是正のために、公立図書館は意義のある場所である。若者に本に触れてもらう機会を増やすため、図書館にカフェを併設したり、町なかのお店などに図書コーナーを分散して設置することで、町全体が一つの図書館になるような取組みもよいと思う。</li> </ul>

### 3 県立農林大学校

開催日	令和4年10月21日（金）
開催場所	県立農林大学校（新庄市）
出席議員	加賀正和、船山現人、菊池大二郎、梅津庸成、梶原宗明
参加者	学生 107名
意見交換の概要	<p>「今後の農業経営・林業の発展方策等」をテーマに、意見交換を行った。</p> <p>【意見の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の頃、農業は「3Kの職業だ」と言われたことがある。しかし、私はそのようなイメージを全く持っていない。農業を発展させるためには、私のような意識を持った若い担い手を育成することが必要だと思う。</li> <li>・農業の発展のためには、県内の人材だけでなく、県外からの新規就農者の参入が重要だと思う。令和6年に開学する「東北農林専門職大学（仮称）」は県外の人材を県内に呼び込む良い機会になると思う。</li> <li>・農林大学校を卒業した後、削蹄師として県外の農業法人に就職する予定だが、畜産法人等では、産休・育休取得の実績がほぼないと聞いている。出産時などに休暇を取得しやすい環境づくりに力を入れてほしい。</li> <li>・森林ノミクスの推進に向けて「広葉樹の利用（建築用材）」がキーワードになっている。一方、コロナ禍によるウッドショックも落ち着き、製材所でも受入れ制限が始まり、木材価格の低迷や需要の減少が予想される。木材価格の安定と需要拡大を図りながら、林業分野での雇用を創出していく必要がある。</li> </ul>

#### 4 酒田市立酒田看護専門学校

開催日	令和4年11月1日（火）
開催場所	酒田市立酒田看護専門学校（酒田市）
出席議員	加賀正和、小松伸也、関徹、遠藤和典、遠藤寛明
参加者	1年生 23名
意見交換の概要	<p>「人間の多様な価値観を尊重する～LGBTQ&amp;SOGIの人たちが生きやすい社会を構築するために看護師を目指す私たちができること～」をテーマに、5つのグループ（1班あたり学生4名又は5名・議員1名）を編成し、テーマに沿ったグループワークと成果発表を行った。</p> <p>【発表の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTQであることを言いやすい環境づくりが大事。看護師も自分の「普通」を押し付けず、受け入れていることを態度で示す。</li> <li>・LGBTQという言葉自体が差別につながっており、SOGIを広めていく方が差別をなくしていけるのではないかな。</li> <li>・若者はLGBTQなどについて授業で習うが、授業で習っていない高齢者ほどその理解に乏しいと思うので、病院にポスターを掲示する、病院内で学ぶ機会を設けるなど、皆が知っている環境をつくっていくべき。</li> <li>・LGBTであるかどうかについて、入院の際に確認する。LGBTであることを本人の許可を得て、病院スタッフ間で共有してはどうか。</li> </ul>